

連載：博物館と社会を考える

第7回

世界科学館・科学博物館の日（世界科学館デー）

林 浩二（千葉県立中央博物館）

連載「博物館と社会を考える」

第1回 科学館は博物館ですか？（2015年5月）

第2回 博物館はいくつありますか？（2015年7月）

第3回 博物館の展示は何かを伝えるのですか？（2015年9月）

第4回 博物館の展示は何かを伝えるのですか？ その2（2016年2月）

第5回 博物館の国際的動向2016（2016年10月）

第6回 科学館・科学博物館の社会的役割宣言（2017年3月）

●連載の訂正（第6回）

第6回 注6をp.2とp.3の2か所で使ってしまいました。

先にてくるp.2の注6は

<http://www.scws2014.org/home/mechelen-declaration/>

を参照してください。訂正してお詫びします。

11月10日は世界科学館・科学博物館の日

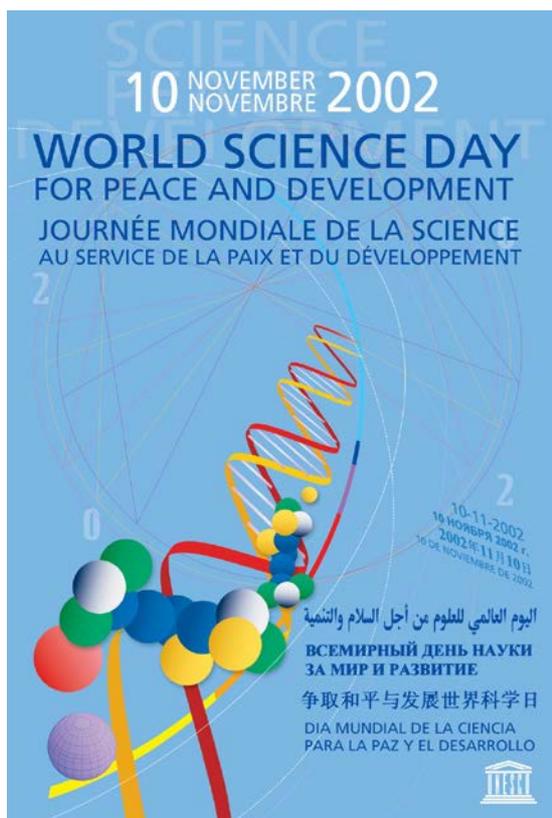
今回は、前回少し触れた世界科学館・科学博物館の日について、詳しく見て行きましょう。

連載第6回で紹介しましたように、毎年11月10日は世界科学館・科学博物館の日／International Science Center and Science Museum Day (ISCSMD)とされ、これは昨年2016年に始まったばかりのものです。

国連教育科学文化機関・ユネスコがその総会で11月10日を科学の平和的利用の日にするという決議（resolution）を行ったのは2001年のことです。2001年10月～11月にパリで行われた第31回ユネスコ総会の20番目の決議で、毎年11月10日を平和と開発のための世界科学の日／World Science Day for Peace and Development (WSDPD) とするよう定めました（注1）。その決議の中では、ブダペスト（ハンガリー）で1999年6月26日～7月1日に開催された世界科学会議／World Conference on Scienceの成果文書である科学と科学的知識の利用に関する世界宣言／Declaration on Science and the Use of Scientific Knowledge（注2）を認識して、と述べられています。

ユネスコと国際科学会議／ICSUの共催によるブダペスト会議は、科学と社会の関係、また持続可能な開発を考える上で重要な位置を占めています（注3）ので、いずれ改めて取り上げたいと思います。

平和と開発のための世界科学の日／WSDPDの第1回は2002年11月10日に開催されました。画像はそのポスターです。



(UNESCOのウェブサイト)注4

ユネスコの WSDPD のページの右のカラムには各年のページへのリンクが出ています。注5

2016年は、科学館と科学博物館を祝うがテーマでした。2015年ユネスコ博物館勧告を受けて、平和と持続可能な開発のための科学館・科学博物館の役割が期待されています。そして、この2016年から、この11月10日を世界科学館・科学博物館の日/International Science Center and Science Museum Day (ISCSMD) とすることになりました。このISCSMDについては、科学館協会/Association of Science-Technology Centers (ASTC) がサイトを立ちあげています(注6)。

このサイトでは、科学館・科学博物館みずからがどのように持続可能な開発目標 (SDGs) を位置づけて発表するのかを解説するページもあります(注7)。SDGsは、2015年ユネスコ博物館勧告よりも個別具体的でコンパクトな説明になっているため、このように科学館・科学博物館の活動と直接に関連づけて考える対象としてとりあげられるのだと考えます。

今年2017年のISCSMDは、世界的な実験として、環境のための地球規模の学習及び観測プログラム/Global Learning and Observations to Benefit the Environment/GLOBE(注8)と共に、蚊をテーマにしています(注9)。「蚊は世界で最も危険な動物」という認識で、蚊の生息場所を探し、蚊によって引き起こされる病気(感染症)について調べることを勧めています(注10)。

日本で2014年に約70年ぶりに国内でのデング熱感染者が確認されたのは記憶に新しいところで、このデング熱はヒトスジシマカによって媒介されます(注11)。同じく蚊が媒介する感染症にジカ熱があり、昨年2016年はオリンピックが開催されたブラジルのリオ・デ・ジャネイロでは同じく蚊が媒介するジカ熱が流行している地域ということで、流行が懸念されました。

今回の呼びかけでは、日本にも分布していて、実際にデング熱を媒介したヒトスジシマカとジカ熱の媒介でしられるネッタイシマカを特に調べるようになっています。

このように先進国・途上国を問わず身近で深刻なテーマを全世界で同時に調べることは、2030年に向けて世界中で持続可能な社会を作ることにつながると考えられます。SDGsのうち、特に目標3の「すべての人に健康と福祉を」、また感染症に言及しているターゲット目標3.3に関連していると考えられます。

第2回の世界科学館・科学博物館の日（2017年11月10日）に向けて、国内の動きはどうでしょうか？

国内の科学館・科学博物館のうち、主として科学館（Science Center、資料を持たない館）が集まっている全国科学館連携協議会（略称＝連携協）は「世界科学館デー」への参加を宣言し、加盟館の参加を促しています（注12）。一方、主として科学博物館（Science Museums、資料をもつ館）が集まっている全国科学博物館協議会（略称＝全科協）の方では特に動きを見つけられませんでした。

この第2回の世界科学館・科学博物館の日の直後の11月14日～17日、日本科学未来館では、世界科学館サミット／Science Centre World Summit（SCWS）が開催されることになっていて、招待講演者や発表プログラム情報が公開されています（注13）。プログラムを概観すると、国内発表者は極めて限られていること、持続可能性などへの言及がいくつもあること、がわかります。このサミットについては、次回以降でふれたいと思います。

日本の博物館をめぐる提言・報告が相次ぐ

この春～夏にかけて、科学館・科学博物館に限ることなく日本の博物館そのものの制度についての提言・報告などが相次ぎました。今回、まずは情報源情報としてリストアップしておきます。これらの文献は、今後、日本における博物館の制度を議論する際には、参照することが必要でしょう。

なお、書誌事項はそれぞれの奥付から採るようにしましたが、「正式の」というか発行者として希望する表記が示されていないので、文献表記に困ります。このような報告書系の資料について、作成者は意識して奥付か表紙近くのどちらかに、書誌事項を表記してほしいものです。

1. 日本の博物館のこれから－「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営－



山西良平・佐久間大輔（編）. 2017. 日本の博物館のこれから－「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営－. 平成26～28年度 日本学術振興会科学研究費助成事業研究成果報告書 基盤研究(C) 課題番

号 JP26350396 研究代表者 山西良平. 大阪市立自然史博物館, 大阪市 (発行は2017年3月27日、リポジトリでのウェブ公開は2017年3月29日)

報告論文ごとにPDFファイルで公開されています。なお報告書全体の permanent link は <http://id.nii.ac.jp/1504/00000026/> です。

これは、国立情報学研究所のクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービス (JAIR cloud) を利用したものです。

大阪市立自然史博物館学術リポジトリ
<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>

大阪市立自然史博物館
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

2. 博物館登録制度の在り方に関する調査研究および平成25年度博物館総合調査報告書

公益財団法人日本博物館協会 (編). 2017. 「博物館登録制度の在り方に関する調査研究」報告書. 60p. 公益財団法人日本博物館協会, 東京都台東区 (発行は2017年3月、ウェブ公開は2017年8月10日)
<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/tourokuseido.pdf>

公益財団法人日本博物館協会 (編). 2017. 平成25年度博物館総合調査報告書. 137p. 公益財団法人日本博物館協会, 東京都台東区 (発行は2017年3月、ウェブ公開は2017年8月10日)
<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/H25%20sougoutyousa.pdf>

いずれも、日本博物館協会からのお知らせ
<https://www.j-muse.or.jp/index.php#news>
に8月10日の更新として出ている。

公益財団法人日本博物館協会
<https://www.j-muse.or.jp/>

3. 21世紀の博物館・美術あるべき姿 ―博物館法の改正へ向けて

日本学術会議 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会. 2017. 日本学術会議 提言「21世紀の博物館・美術あるべき姿 ―博物館法の改正へ向けて」, 18p. 日本学術会議, 東京都港区 (発行: 2017年7月20日)
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t243-1.pdf>

直接の作成者は史学分野の研究者であることに注意したい。
また、提言のうち脚注17 (p.14) 西山良平は、明らかに山西良平の間違い。

日本学術会議について詳しくはウェブサイト (<http://www.scj.go.jp/ja/scj/>) を参照のこと。

注1 この決議は 31/C Resolution 20 として識別されます。議事録は
<http://unesdoc.unesco.org/images/0012/001246/124687e.pdf>
今のところ11月10日が選ばれた理由は見つけれません。

注2 「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」は、文部科学省の2010年の科学技術・学術審議会の参考資料としてウェブサイトに出ています。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/siryu/attach/1298594.htm
原文（英文）はユネスコのサイトに出ています。
http://www.unesco.org/science/wcs/eng/declaration_e.htm

注3 ユネスコサイト
http://portal.unesco.org/en/ev.php-URL_ID=5151&URL_DO=DO_TOPIC&URL_SECTION=201.html

注4 ユネスコサイト
<http://www.unesco.org/new/en/unesco/events/prizes-and-celebrations/celebrations/international-days/world-science-day-for-peace-and-development/world-science-day-2002/>

注5 ユネスコサイト
<http://www.unesco.org/new/en/unesco/events/prizes-and-celebrations/celebrations/international-days/world-science-day-for-peace-and-development/>

注6 <http://www.iscsmd.org/>

注7 <http://www.iscsmd.org/sdgs-in-science-centers/>

注8 グローブ計画については文部科学省の環境教育のページにでています。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kankyuu/
グローブ計画の日本事務局（東京学芸大内） <http://fsifee.u-gakugei.ac.jp/globe/>
グローブ計画の世界事務局 <https://www.globe.gov/>

注9 ISCSMD のサイト内 グローバルな実験 <http://www.iscsmd.org/experiment/>

注10 GLOBEは、それに参加する生徒や市民が収集したデータをセンターに集め、科学者がとりまとめ、分析することが軸となるプログラムです（もちろん生徒や市民の主体的な活動も含まれます）。わたしは、2015年2月にカリフォルニア州サンノゼで開催された全米科学振興協会（AAAS）の年大会に参加して Citizen Science という名がついた、いくつもの分科会の発表を聞きましたが、AAASでは Citizen Science とは、まさにこのGLOBEと同様に、市民はデータ集め係という役割・権力関係を固定するものだったので、強い違和感を感じました。NPO法人市民科学研究室に参加・参画する一人として、このことについては、稿を改めて論じたいと思います。

注11 国立感染症研究所のページ
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/693-disease-based/ta/dengue/idsc/iasr-news/5268-pr4191.html>

注12 全国科学館連携協議会のページ
<http://jasma.sc/modules/news/index.php?page=article&storyid=176>

注13 Science Centre World Summit 2017のページ <https://scws2017.org/>

URLはいずれも2017年8月アクセス